

きらきら

紀宝町町勢要覧

2007

紀 KIHO 宝

きらきら光る・ひろがる 紀宝の宝

世界遺産の信仰の道・熊野古道、歴史の表舞台で活躍した熊野水軍
ウミガメが訪れる美しい浜、悠久の時を超えて流れる熊野川
そして、ふるさとを愛する人情味豊かな人々…
無数の宝がまちを魅力的に輝かせている。それが、紀宝町です。

きらり 紀宝

新しいまちが産声をあげた。

大きくもない、都会でもない。

でも、どこにも負けない個性が光っている。

ここにしかない宝がこのまちにはたくさんある。

美しい自然、奥行きのある歴史、

人と人との温かいふれあい。

ずっと大切に守り伝えられてきた宝は、

いま、ひとときわ輝きを増し、

まちの未来を照らしだす。

01 町長あいさつ

02 きらめく自然の宝

光射す祈りの道

熊野古道

06 輝く大海の宝

脚光を浴びた

熊野水軍

10 「文化財」永久の輝き

12 守りつづける涙の輝き

14 きらら紀宝人

16 先人たちの魂の光

18 笑顔がきらり 紀宝の一年

20 きらきら紀宝遊戯

22 「町内活動施設」きらめきの場所へ

24 輝く宝創造 — 新たな紀宝町創り —

26 きらりと輝くまちづくり

36 きらり紀宝マップ

38 「特別付録」きはりの宝辞典

41 まちのプロフィール

CONTENTS

町長あいさつ



紀宝町及び鵜殿村は、町村合併により平成18年1月10日に新「紀宝町」として生まれ変わり、「海・山・川の恵みに抱かれ、ともに輝き創造するまち」を新町の将来像とした、新たなまちづくりを始めました。

面積は、79.66km²で紀伊半島の南東部に位置し三重県の南玄関となっています。

両町村は、海・山・川の豊かな自然に恵まれ、みんながふれあい、助け合い、明るく豊かな人間性を育んできました。今日まで、先人達の英知と努力によって築き上げてこられた賜と心から感謝申し上げる次第でございます。

歴史的な背景や町民相互の交流、地域が一体となったまとまりのあるまちづくりが求められる中で、町民相互の融和と交流を図りながら、町民一人ひとりと行政との協働で創意と工夫により実現していきます。

今後もまちづくり発展のために、皆様のお力添えをいただきながら、明るく住みよい元気な紀宝町の飛躍発展に一層の努力を重ねてまいり所存でございます。

この町勢要覧が、紀宝町の未来へのきらりと輝くまちづくりの足がかりとして皆様に役立つことができれば幸いです。

紀宝町長 **西田 健**



きらめく 自然の宝

ゆったりと時が流れる自然がいつばいのまち
息をのむような絶景や心安らぐ景色に出会えます。

長い歳月を絶えることなく
大地を潤してきたふるさとの清流。
現在、過去、そして未来に向けて、
まちと人の心も潤していきます。

くまのがわ
熊野川



急峻な峰から湧き出た清水は岩を縫い、
少しずつ水かさを増し、奔流に成長し、
白煙を上げて岸壁を流れ落ちます。
辺りに満ちるマイナスイオンに
心も体も深呼吸します。

ねのとまりやま
子ノ泊山

のどかで心なごませる里の風景を
縁どる緑の稜線
ふるさとの山はいつも変わらない姿で
里の暮らしを見守り続けています。



ひせつ
飛雪の滝



か し はなうじ 棍鼻王子 (棍鼻王子) こんげんあと 権現跡

伊勢路にあった数少ない拝所(王子)のひとつです。現在、井田上野口JRガード近くにまつられている棍鼻王子権現の元々の鎮座地だったことが『九十九王子記』や『紀伊続風土記』などの古文書に記されています。



みくねしま 御船島

熊野川河口にある熊野速玉大社の境内の一部で、速玉神の遷座地とされています。毎年10月16日に行なわれる御船祭の「早船競漕」で早船、諸手船、神幸船が島の周囲を3周することからその名がつけました。



せんじ 宣旨帰り

熊野川と切り立った岸壁の間を縫うように通って熊野に至る川端(川丈)街道にある難所のひとつです。昔、天皇の使者(伝使)が、川の増水で先に行くのをあきらめ、引き返したという故事が名前の由来になっています。

【紀伊山地の霊場と参詣道】

光射す祈りの道

世界遺産

熊野古道

紀伊山地の
霊場と参詣道

熊野三山へ至る信仰の道として古くから開け、世界遺産にもなっている熊野古道。紀宝町を通る古道の沿道には史跡が数多く残り、往時の熊野詣の様子をしるせます。

中 世以降、熊野権現信仰の広がりとともに盛んになった熊野詣には、複数のルートがありました。熊野の中心地、速玉大社のある新宮の出入り口に位置する紀宝町は、熊野詣の交通の要衝として、伊勢から紀伊半島の東岸を南下する伊勢路や熊野川左岸を西に上る川端(川丈)街道、北山道、川の参詣道と呼ばれる熊野川が通っていました。

史料が少ないため、詳細な古道ルートに関しては諸説がありますが、井田横手地蔵付近には、熊野詣が盛んだった当時の様子を伝える史跡や自然の風景が多く残っています。



きねがだにしや
貴祢谷社

有名な長寛勘文(1163)に引用された熊野神はここ貴祢谷にお祀りされています。後、新宮へ遷御された様子を再現したのが速玉大社の御船祭といわれています。

こうのうちじんじや
神内神社

子安神社とも呼ばれ、安産の神、豊漁の神として古くから信仰されてきました。神殿はなく背後の岩窟(がんくつ)を御神体とする自然崇拝の遺風をそのまま遺しています。



いだかんのん
井田観音

安政3年(1856)建立の木造の堂宇に鎌倉時代の作と伝えられる観音像がまつられています。この本尊は厄落とし観音として有名です。



よこてえんめいじぞう
横手延命地蔵

熊野古道(浜街道)の熊野灘を見下ろす見晴らしの良い山道にあり、その昔、病氣平癒のご利益があるとして信仰されました。地蔵前に湧き出る水は、霊水と伝えられています。



輝く 大海の宝

朝昼夕、春夏秋冬、それぞれに表情を変える天然の大劇場
群青の海原に向き合うと、自然の大きな懐に抱かれる喜びに満たされます。

くまのなだ
熊野灘





南国の陽射しが降りそそぐ光あふれるまち、紀宝町。
遥か遠く太平洋へと続く熊野灘の雄大な眺めが広がり、
温暖な気候と豊漁をもたらす黒潮の恵みとともに
暮らしています。

熊野灘の海岸線に沿って松林が続く美しい井田海岸は、
アカウミガメの産卵場所として全国に名高く、
五月下旬から八月上旬にかけて
アカウミガメが産卵に訪れ、
生命の神秘と自然の営みの豊かさを伝えます。

井田海岸
いたかいがみ

「誇り高き
海の武士団の歴史」

脚光を浴びた

熊野水軍

鵜殿は、日本史上に勇名を馳せた熊野水軍のふるさとです。源平の合戦、南北朝の戦乱など歴史の重要な局面に活躍した海の勇者たちの偉業は、時代を超えて語り継がれています。

遠

い昔から熊野灘沿海に暮らす人たちは、舟を操って生計を立ててきました。そんな海人たちの一大集団のひとつが、熊野川河口に本拠を置いた鵜殿衆でした。操船と造船に優れた技術を持った彼らは次第に武力を持つようになり、海の武士団、ときに海賊と呼ばれる集団になっていきました。熊野の海人たちは熊野水軍として歴史の表舞台に登場させたのは熊野権別当湛増ごんべいとう ぜんぞうでした。当時、中央政権で権力を握っていた平家に反旗を翻した源頼朝とほぼ同時期に、熊野で反平家のろしを上げた湛増は、熊野の海賊たちを水軍として組織

しました。この水軍の活躍で湛増は熊野地方の実権を手中におさめ、さらに壇ノ浦の戦いにも水軍を率いて参戦し、海戦に不慣れた義経軍に勝利を呼び込みました。壇ノ浦の戦いの活躍で、熊野水軍の勇名は全国にとどろきました。その後も熊野水軍の末裔まついたちは、海の武士団として南北朝時代や戦国時代の戦や豊臣秀吉の文禄・慶長の役に出陣しました。江戸時代になって世の中が平和になると彼らは歴史の表舞台から姿を消しましたが、廻船業で頭角を現し、海に生きる海人としての伝統は脈脈と受け継がれていきました。



もろとびね
諸手船

御船祭で速玉大社の神霊を乗せた神幸船を曳航して御旅所へと導きます。熊野水軍の小型主力軍船の形態を伝える貴重な船として、三重県の有形民俗文化財です。



うどのしいちもん ぼせきぐん
鵜殿氏一門の墓石群

貴祢谷社の境内の一角にある墓石群は、古代から中世にかけて熊野川河口を本拠に、川と海の交通路を掌握し、水軍の将、神官、御師、問丸、荘司と幅広い活躍をした鵜殿氏一問の墓と伝えられています。



うどのじょうし
鵜殿城跡

今から700～800年前に鵜殿氏によって築かれた小規模の城跡です。城郭の周囲を土手状に積み上げた搔上式土塁という方法で築かれ、典型的な中世の山城の特徴を備えています。

とわ 永久の 輝き

史跡はまちの歩みを伝える証人です。社寺や石造物などの文化財を前に耳をすませば先人の息遣いが聞こえてくるようです。

海

、山、川の自然と向き合って暮らしてきた紀宝の人々は、自然に対する畏敬の念を常に忘れませんでした。その思いを伝えるのが町内に数多く残る社寺です。鵜殿地区に分散していた神社を合祀した烏止野神社、熊野速玉大社の摂社と伝えられる貴祢谷社、熊野三仏のひとつをまつる平尾井薬師など、いずれも自然の息吹に満ちた荘厳な雰囲気は往時の面影をとどめています。

製紙工場の北にある宝篋印塔は、熊野川と深く結びついてきた紀宝町の歴史を伝える史跡です。熊野川河口の鵜殿浦は、新宮とともに江戸や上方へ物資を運ぶ廻船基地として栄えていました。その廻船業者たちが、通航の難所だった熊野川河口の祈禱と海上安全祈願のために建立した石塔が宝篋印塔で、塔の下に小石に経を記した石経三千個を埋めたことが「熊野年代記」に記されています。



ゴトヒキ岩

神内神社の社域にそびえる巨岩で、スギやヒノキなどの古木のなかに鎮座し、厳かな雰囲気を出しています。



弁慶産屋の楠跡

紀宝町鮎田地区は、熊野別当の子で源義経の腹心、武蔵坊弁慶の出身地と伝えられ、弁慶の生家の庭にあったという楠の跡に石碑が建てられ、弁慶の伝説を伝えています。

宝篋印塔

宝暦9年(1759)、瑞泉寺の僧が、廻船衆の安全と難所の熊野川河口の出入りの無事を祈願して建立したものを、文化11年(1814)、同寺の僧哲山が再興したもので、「海上安全」の文字が刻まれています。



ひらおいやくし
平尾井薬師

瑠璃色の瓦葺きの屋根に、朱塗りの柱が華麗なお室には、熊野三仏のひとつに数えられる薬師如来像がまつられています。伝承では、11世紀に白河法皇が熊野三山に御幸された際、相野谷の地に薬師堂の建立を勅願して建立されたものです。



うどのじんじゅ
烏止野神社

明治40年（1907）に鶴殿地区の各所にあった社殿を合わせてまつたもので、天照皇大神をはじめ七神を祭神としています。神社を取り囲む宮山と呼ばれる20アールの森は約70種の草樹が自生する珍しい暖帯林で、町指定の文化財になっています。この森に生えるオガタマノキを食草にして繁殖するミカドアゲハ（蝶）が生息しています。

井田小学校の
ウミガメ保護活動

自然ふ化が難しい場所に産卵した卵を保護し、小学校のふ化場で人工ふ化した子ガメを、毎年海に放しています。

産卵



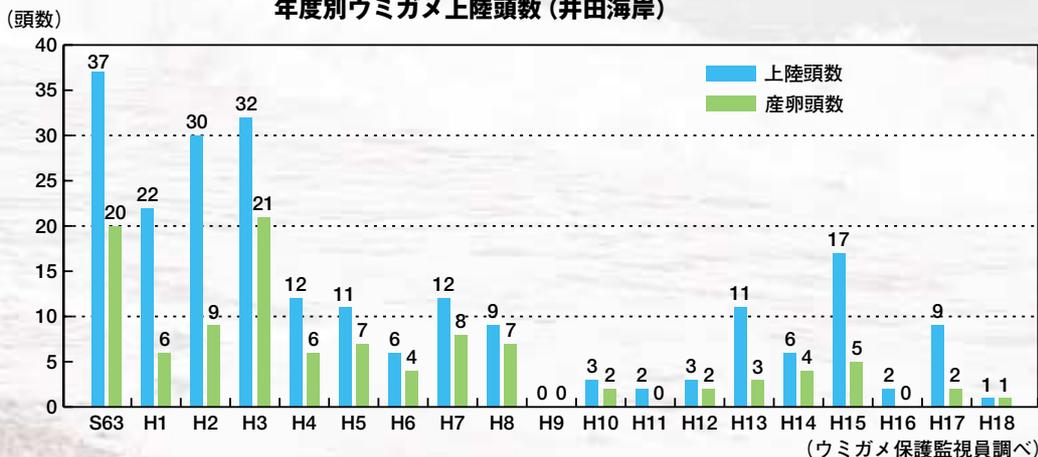
【ウミガメ保護活動】

守りつづける 涙の輝き



ウミガメが卵を産むときに流す涙のように、自然は命の輝きで満ちています。紀宝町はかけがえない命を大切に守り続けてきたまちです。

年度別ウミガメ上陸頭数(井田海岸)



自然の輝きを守る

毎

年、アカウミガメが産卵に訪れる紀宝町。希少種となりつつあるウミガメを保護し未来へと継承していくために、昭和63年、全国初となる町独自での「ウミガメ保護条例」が制定されました。「多くの人にウミガメのことを知ってもらい、かけがえのない自然の輝きを町内外広い範囲で守っていききたいね。」とウミガメ保護監視員の萩野さんは熱い想いを語ります。ウミガメ保護監視員の活動は、産卵期の夜間パトロールや卵の保護など。ウミガメを通じて自然保護の意識を高めてもらうとさまざまな活動を行っています。



ウミガメ
保護監視員
萩野進也さん
Shinya Hagino

第17回全国ウミガメ会議

平成18年11月18日から3日間、熊野・七里御浜地方を開催地に全国トップレベルのウミガメ研究会議が行われました。



ウミガメ公園

ウミガメ保護・啓発活動の拠点施設です。ウミガメの水槽や資料館などがあり、ウミガメについて深く学べます。



紀宝町ウミガメ保護条例

(昭和63年7月1日施行)

第1条 (目的)

この条例は、ウミガメが本町の豊かな自然環境を構成する貴重な野生生物であり、かつ、学術的及び文化的価値を有するものであることにかんがみ、町及び町民等（町民及び滞在者をいう）が一体となってその保護を図り、もって将来の町民に、これを共有の資産として継承することを目的とする。

保護



ふ化



放流





紀宝町健康文化のまち推進会議 町民部会
【廣畑 勝也 さん】

紀宝町健康文化のまち推進会議町民部会部会長を務めるほか、紀州舞踊隊のメンバーとしてイベントなどで活躍中。

紀宝町には、ふるさとを魅力と元氣あふれる
まちにしようと、それぞれの分野で
がんばっている人たちが大勢います。
そんな、みなさんのきらりと光る活躍ぶりを紹介します。

紀宝人

きらきら

きぼうびと

健康体操や創作舞踊を通じて 世代間交流、地域間交流を



健康文化のまち推進会議町民部会には、「花
つくり部会」「森林浴里山道整備部会」
「山歩き部会」「音楽療法部会」「生ごみ部会」「健
康体操部会」の六つの部会があります。私は、健
康体操部に所属し、保健センターとコラボレ
ションして作った「うみがめピクス」の普及に取
り組んでいます。また、この活動から、踊りを通
じて世代間交流、地域間交流を図ろうということ
で紀州舞踊隊が発足し、年齢層も様々な百六十名
ほどが参加・活動しています。イベント参加時な
ど、みんなで力を合わせ、感動や達成感を世代を
超えて共有できるのは得がたい経験です。これか
らの目標としては、健康体操部会では、「うみが
めピクス」の曲に鵜殿の風景を取り入れた歌詞を
つけて、新たにCDを製作したいです。舞踊隊と
しては、紀州舞踊隊はもちろん、そのほかの町民
グループの活動も盛んにして、喜びに満ち溢れた
地域社会を築いていきたいですね。



花好きの輪を広げ、紀宝を花のまちに



うどの地区花作りグループ
大田 芳男 さん

は四十七名で、毎月二回、花の手入れと毎日交代で水やりをしています。花壇が十五カ所あるので管理は大変ですが、また種が芽を出し、成長して開花し、それをみなさんに褒めていただくときは感動します。水やりを協力してくれる花好きの人の輪が広がり、たくさんの花がもてなすまちとして新紀宝町のお役に少しでも立てればいいですね。



花

好きが集まって種

まきから育苗、植栽、手入れまで行っています。現在、メンバー

ホタルを通じて自然に親しんでほしい



ていくとともに、「ホタルが飛び交い、文化の薫る美しいまち」を作っていききたいですね。

ほ たるを守る会では、約三十名の会員が地域担当係や飼育増殖係、出前授業・研究係など役割分担してホタルの保護や増殖、自然保護の啓発活動に取り組んでいます。現在、ホタル飼育小屋を建設し、町の子どもたちと一緒にホタルの増殖や研究などの活動をしていけるか検討中です。子どもたちにホタルの美しさやかなさ、自然の大切さを伝え



ほたるを守る会 会長
矢熊 敏男 さん

自然体験を通じ、緑を愛する心を育む

小学校の児童だけが対象なので、この活動を町内の小学校にも広げていければいいですね。



紀 宝みどりの少年隊は、鵜殿小学校の四〜六年生の児童を対象に、「少年自然の家」などでの宿泊活動や湯ノ口（北山川）野外宿泊活動、植樹などを行い、自然に親しみ、自然と緑の大切さを感じてもらうことを目指して活動しています。大切なお子さんをお預かりするので、無事に行事が終えられるよう安全には人一倍気を遣います。現在は鵜殿



紀宝みどりの少年隊
川島 功 さん



先人たちの 魂の光

土地の歴史と風土が育んだ地域固有の文化
なかでも先祖代々、守り伝えられてきた伝統行事は、地域のかけがえない宝です
祭りとともに、ふるさとを愛する思いも次代に引き継がれています。



受け継がれる想い

自

然とともに生きる紀宝町では季節の伝統行事が大切にされています。紀宝町の祭りのシーズンは秋。十月十四日から催される熊野の秋の風物詩、新宮速玉大社の御船祭に鵜殿地区は諸手船で参加します。十一月二十三日

に鵜殿地区で催されるうどのまつりは郷土芸能が勢ぞろい。子どもたちが引く諸手船山車を古式ゆかしいハリハリ踊りが盛り上げます。町内の各神社でも豊作に感謝して秋祭りが行われます。



平尾井踊り



浦安の舞



井田ほうき踊り

神内神社秋まつり

別名「子安神社」として古くから信仰される神内神社の例祭で11月23日に催されます。厄払い神事や玉串奉てん、巫女姿の児童による浦安の舞の奉納などが行われます。



紀宝の一年

紀宝町は、住民の、住民による、住民のためのイベントが盛りだくさんです。
内容も充実のイベントは、いまやまちの風物詩。
イベントの訪れとともに巡る季節を感じ、地域に暮らす幸せを満喫できます。

元気はじける

紀 宝町の一年は、四季折々に催される楽しく

活気のあるイベントで華やかに彩られています。秋には、まち最大のイベント、紀宝港フェスティバルが開催されます。一年を締めくくるのは、イルミネーションが町を華やかに彩る光の祭典in紀宝。子どもからお年寄りまで参加するまちをあげてのイベントは、集まった人々の心をひとつにして、まち全体を盛り上げています。



みなと 紀宝港フェスティバル

「見る、食べる、遊ぶ、買う」をテーマに10月中旬に開催される紀宝町最大のイベント。アーティストのコンサートや地元の太鼓グループなどのステージに、屋台やバザーなども出て、会場の鵜殿港は大勢の人で賑わいます。





笑顔がきらり



浅里滝まつり

10月下旬～11月上旬に名瀑「飛雪の滝」前の広場で開催されるイベントで、太鼓演奏など郷土芸能の舞台や地元産農産物の販売、模擬店、あまご釣り、ゲームなど終日、多彩な催しが繰り広げられます。

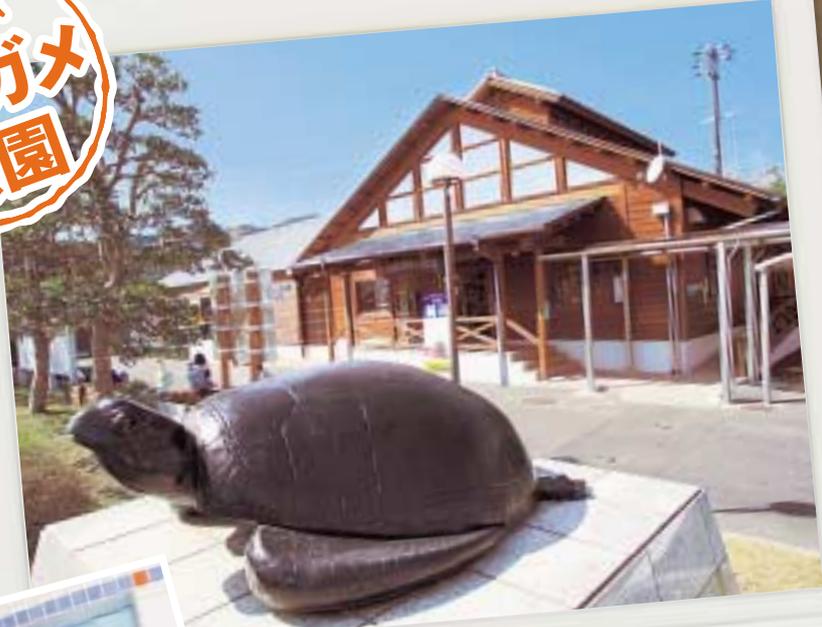


光の祭典 in 紀宝

田代公園ふるさと資料館周辺が約16万個の電球のイルミネーションで彩られる、紀宝の冬の風物詩です。

きらきらきら

道の駅 ウミガメ 公園



資料館・飼育棟 ☎ 9:00~17:00 ♪ 入館料:無料
☎ 0735-32-3686 休 12/31・1/1
物産館 ☎ 8:30~19:00 ☎ 0735-33-0300 休 年中無休

国道42号沿いにあるアカウミガメの保護・啓発活動の拠点で、飼育棟ではガラス張りのプールにいるウミガメを観察できます。

海、山、川の豊かな自然を満喫でき、五感がフルに刺激される遊びと見どころがいっぱいです。

世界遺産 熊野川を まるごと体感

さんたんぽ
「三反帆の川舟乗船」や「熊野古道の散策」、「えびかき体験」などの川遊びで「熊野川」をまるごと体感しよう！



【インフォメーション】
☎ 通年(要予約)・午前10時集合で約5時間の体験
¥ 料金:5,000円(昼食つき) ☎ 0735-21-0314(熊野川体感塾)

体験!

ハイキングコース



子ノ泊山トレッキングコース



紀 宝町の最高峰、標高九〇六・七メートルの子ノ泊山の山頂を目指す一六・六キロメートルの健脚向けコースです。途中、「子親の滝」やスリリングな切り立った岩場の「牛の背」など絶景ポイントもいっぱい。山頂からは、南に熊野灘、北に熊野川と十津川の山並みを一望できます。

大烏帽子山ハイキングコース



東 紀州十名山のひとつで標高は三六二・一メートル。五つあるハイキングコースはどれも初心者向けですが、なかでもウミガメ公園前から井田観音前を通過していく上りのゆるやかなコースがおすすめです。平見の池や四つの平たい石が並んだ「担い石」を経て山頂へ。展望台からの眺めもばつぐんです。

紀宝遊戯

きぼう
ゆうぎ

紀宝の特産品

紀宝の海と山の幸と人々の知恵と技が合体して生まれた特産物は、味わってよし、眺めてよし。紀宝のエッセンスがたっぷりつまっています。



みかん



釜揚げしらす



無農薬玄米酢



紀宝梅



紀和牛



ナメコ



コチョウ蘭



なれずし



和菓子

きぎらめきいの 場所へ

心の豊かなまちづくりを進める紀宝町には、まちの歴史と文化を紹介するミュージアムや住民の芸術・文化活動の拠点になる生涯学習施設が揃っています。

ラ イフスタイルや価値観の多様化に伴い、住民の文化活動も多彩になっています。そんな多様化する住民ニーズに応えるとともに、新しい住民文化の創造と地域文化の伝承・発展を図っていくための中核となるのが町の文化施設です。紀宝町には、町立鶴殿図書館、ふるさと資料館「みどりの里」、生涯学習センター「まなびの郷」などの施設があり、豊かな文化的環境を創造しています。真に豊かな生活を営むために不可欠な文化活動とともに

に、住民生活に欠かせないのがスポーツ活動です。体を動かす喜びや仲間、地域との連帯感を得られるだけでなく、心身を健やかにするスポーツを、体力や年齢、興味や目的に応じ、いつでも身近に親しむことができるように、町内には鶴殿運動場などの施設が設けられています。充実した文化・スポーツ施設を拠点に繰り広げられる住民の活動が、文化の薫り高く、活気あるまちづくりを支えています。



ふるさと資料館「みどりの里」
昔、熊野川を往来した屋形舟をイメージして木をふんだんに使った外観が目印です。館内には、昔の暮らしぶりを伝える民具や農具、埋蔵文化財、産業器具など約500点がテーマ別に展示されています。陶芸などができる传承ホール、茶道やいけばな、パソコン教室などに利用できる和室、パネルギャラリーなどがあります。



生涯学習センター「まなびの郷」

平成16年4月に鶯殿地区に開館した生涯学習センターです。音楽会や講演会などが開催できる500人収容のきらめきホール、バンドの練習ができるスタジオ、ダンスや踊りの練習に最適の壁面が鏡張りの練習室、木工や陶芸ができる創作工房、お茶席が開ける和室、調理室、パソコンコーナーがあり、だれでも利用できます。



鶯殿運動場

多目的グラウンドや体育館、剣道場、人工芝コートのテニスコートを備えた総合運動施設で、うどのスポーツクラブをはじめ、住民のスポーツ活動やスポーツを通じた地域住民の場として広く利用されています。



鶯殿図書館

鶯殿地区の中央高台にあり、3万8千冊の書籍を所蔵しています。1階は一般閲覧室と児童コーナー、2階は研修室になっています。本の貸出や予約はインターネットを通じて申し込み、町役場をはじめ最寄りの町施設で受け取れます。

輝く宝

すべての住民が
ひとつになって
輝けるまちに

旧 紀宝町、旧鵜殿村の
海・山・川の恵まれた
自然と、豊かな土地柄に育ま
れた産業と明るく温かい人間
性などの地域資源を生かしな
がら、両町村の合併効果を最
大限に発揮して、互いに協調
しながら、創意と工夫でコン
パクトななかにきらりと輝く
まちづくりを進めています。
また、住民がまちづくりの主
役となり、まちづくりを通し
て住民一人ひとりの多様な可
能性が広がっていくような仕
組みづくりにも取り組んでい
ます。

創造

— 新たな紀宝町創り —

旧町村の紹介



紀宝町

東

を熊野灘、西は子ノ泊山、北は大地山を含む

山系に囲まれ、総面積七六・七八平方キロメートルのうち、約八十パーセントが森林です。町内には世界遺産登録の熊野参詣道が通り、井田海岸はアカウミガメの産卵地として知られています。恵まれた気候風土により、農林水産物の宝庫で米やミカンなどが特産物です。



鵜殿村

三

重県南端、熊野川が太平洋に流れ込む河口

に位置し、総面積は二・八八平方キロメートルです。人口は約五千人で、〇歳から十四歳までの年少人口の割合が高いのが特徴です。海と川に恵まれた立地から、祖先は熊野水軍として活躍した歴史を持ち、現在は、港湾の立地を生かした工業、流通業、漁業が盛んです。





● 紀宝町総合防災訓練

生活環境

まぢづくり 安心・安全で快適に暮らせる



● 田代公園

災害に強く、便利で
安らげる環境を整備

気

宝町は、温暖で風光明媚な紀伊の理想の場所です。しかし、豊かな自然は、ときに大きな災害をもたらします。近い将来、東南海・南海地震の発生も予測されるため、地域防災計画に基づく防災体制の充実とともに、熊野市消防署と消防団の連携による消防・救急体制の整備を図り、安心・安全に暮らせるまぢづくりを進めています。

住民生活の快適性、利便性を高める生活基盤整備では、道路網や公共交通機関の整備とともに、情報の共有化や交流に活用できるＩＴを使った情報ネットワークの構築をめざしています。



● 自主防災



● 町民バス



ぬくもりとやさしさが誘う、 健やかで心あふれるまちづくり



● 保健センター

地域で互いに助け合う
やさしさを育む

少

子高齢化の進行を背景に、高まる住民の福祉サービスのニーズに応えるため、子育てに関わる相談・支援体制を整え、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを行うとともに、高齢者福祉では、施設サービスや在宅の生活支援サービスの充実と生きがいづくりを促進していきます。

紀宝町を長寿のまちにするため、保健・医療・福祉が連携して健康づくり活動に力を入れています。また、相野谷診療所と紀南病院の連携を核に、健康増進から予防、治療、リハビリまで一貫した地域医療体制の確立をめざしています。



● 乳幼児健診



● デイサービス



● 鵜殿港

産業振興

自然の恵みを生かした、賑わいある 産業・交流のまちづくり



● みかん栽培風景

産業が導く
まちのにぎわいと活気

恵

まれた地形風土を生かした農林水産業が紀宝町の基幹産業です。温暖な気候のもとで営まれる農業は、水稲と田代地区のパイロット農園で生産されるセミノール種みかんなどかんきつ類が主産品です。豊かな森林資源を生かして、ナメコ栽培も行われています。鶴殿港を拠点とする漁業も盛んです。また、農林漁業体験など体験型観光の振興にも取り組んでいます。製紙、製材の工場が操業する港湾エリアでは、立地を生かした産業振興を進めています。また、紀宝町商工会と連携して商工業の活性化にも努めています。



● 製紙工場

● 水揚げ風景





豊かな心を育む、 歴史と文化の薫るまちづくり



● ALT授業風景

学びとスポーツを通じて
連帯と郷土愛を育てる

ま ちの将来を背負って立つ子どもたちの成長をまちぐるみで見守っています。学校では生きる力を育むとともに、情報化、国際化に対応するため、パソコン授業やALT（外国語指導助手）招致などを実施しています。また、スポーツ少年団活動や野外活動など地域で学ぶ機会を設け、豊かな心を育んでいます。

学びが大切なのは大人も同じです。人生をより豊かにする生涯学習や生涯スポーツの振興に取り組んでいます。また、地域のアイデンティティの核になる歴史や文化、伝統芸能の継承にも努めています。



● 昔あそび体験



● ブックスタート

みんなが主役のまちづくり



● 議会風景（議会側）

自分たちの手で創る 住みよいまち

地

方分権推進一括法の施行にもなつて地方自治体への分権が進むにつれ、住民にも自治の結果としての自己決定、自己責任が求められています。そのため、住民が主体的にまちづくりに取り組める仕組みづくりを住民と協働で行えるように情報の公開や共有化を進めるとともに、自治会や地域組織などの活動を支援していきます。

町政の指針となる予算や条例を審議する紀宝町議会は住民によって選ばれた十五名の議員で構成されています。公正な開かれた議会で明るく住みよいまちづくりを後押ししています。

議会行政

にぎ
賑わい集い



● 役場本庁舎



● 役場分庁舎



● 議会風景(行政側)



きらり紀宝

KIHO MAP

マップ

美しい水と緑に囲まれ、いにしへのロマンが息づく紀宝町。
人と自然と歴史と文化が織りなす魅力に触れに
まちの探検に出かけてみませんか。



熊野市

御浜町

女郎ヶ峰

牛の背

子ノ泊山

平尾井薬師

大里親水公園

相野谷小

相野谷診療所

大里自然プール

相野谷中

大鳥帽子山

宣旨帰り

飛雪の滝

飛雪の滝
キャンプ場

深田運動場

紀宝町

明和小

ふるさと資料館
「みどりの里」

田代公園

ゴトヒキ岩

田代体育館

神内神社
(子安神社)

神内小

保健センター
神内福祉センター

布引の滝

井慶産屋の
楠跡

役場分庁舎

成川小

矢渕中

JR 鶴殿駅

紀南特別養護
老人ホーム
「宝寿園」

御船島

三反帆

168

JR 新宮駅

至
那智勝浦・
和歌山

熊野川
鶴殿地区詳細マップ



新宮市

あ行

生きがい農園

高 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進のために、鵜殿地区のボランティアによって運営されています。高齢者が農作業に親しめる農園で、様々な年齢層

の人や団体と交流を深められる多世代交流広場としての役割を果たしています。主に国土交通省の道路緑化用の花苗などを水耕栽培などで生産しています。

牛の背

標 高九〇六・七メートルの子ノ泊山のハイキングコースと、「一の滝」「二の滝」「三の滝」

「四の滝」を巡るミニトレッキングコースとの合流地点付近にある岩場です。長い歳月をかけて自然が造形した切り立った岩場の道幅はわずか一メートル。一人が歩くのがやっとで、そこに立てば、名前の由来通り、牛の背中を歩いているようなスリリングな感覚が体験できます。

鵜殿城趾展望台

中 世に紀宝町一帯を支配した鵜殿氏が鵜殿城を築いた、矢洩ふれあいの森遊歩道沿いの小高い丘の頂上にあります。この展望台からは、鵜殿地区の街並みが見渡せるほか、鵜殿港、熊野川河口や太平洋も一望できます。また、美しい日の出を見るのにも絶好の場所です。隣接する鵜殿城趾は、南北朝時代に北朝方についた鵜殿氏が南朝方と戦いを繰り広げた戦場になったと伝えられています。絶景を堪能できるだけでなく、鵜殿地区の歴史に触れられるスポットです。



きぼうの

宝辞典

知っているようで知らない、自分たちが暮らすまちのこと。新しくスタートを切った”新”紀宝町で注目の話題やスポットを紹介します。

大里親水公園

熊

野川の支流、相野谷川上流の大里地区に作られた親水公園です。園内には自由広場、せせらぎ水路、桜広場などが自然の地形を利用して整備されています。また、山の緑も豊かで、森林浴をしながらハイキングも楽しめる、水と緑がいっぱいの癒しのスポットです。春は満開のサクラが楽しめ、夏は川をせきとめて作られる自然のプールが子どもたちに大人気です。

うみがめピクス

ア

カウミガメ、地引網、ミカンの畑、鵜殿港など紀宝町ゆかりのものをモチーフにしたオリジナルの健康体操で、ラジオ体操のように子どもからお年寄りまでが体を楽しく動かせる体操として、健康文化のまち推進会議町民部会によって考案されました。紀宝町のまちなかとして親しまれている「紀宝マイタウン」の音楽に合わせた振り付けのなかには、ウミガメの動作などをまねたユニークな動きも盛り込まれています。今ではすっかり町の体操と



して定着し、まちのイベント時などに踊られています。

か行

紀宝朝市

毎

月第二・第四日曜日の午前中、ウミガメ公園イベント広場で開催される朝市で、今年で十三年目を迎えます。地元農家で作った朝採りの野菜や、とれたての新鮮な魚や花樹の苗木などが並びます。鮮やかな野菜などが手に入るとあって、毎回、大勢の人でにぎわいます。売り手を務める生産者とコミュニケーションできるのも人気の秘密です。

子安神社

神

内神社の別名で、古くから子授けと安産にご利益があるとして信仰され、今も町内はもとより遠方から参詣に訪れる人が後を絶ちません。鳥居をくぐって、境内を入ってすぐのところに根元にしっかりと岩を抱いた橋の大樹がそびえています。母が幼子を抱いているようにも見えることから、安産樹と呼ばれています。現在は乾いています。かつては樹が岩を抱くくぼみに水が溜まっていて、参拝に訪れた人は、そこにお賽銭を投じていたといえます。石段を登った拝殿には安産や子宝に恵まれたお礼の言葉が書かれたたよだれ掛けが多数奉納されています。

た行

中央公園

平

成三年三月に鵜殿地区の町並みを一望できる見晴らしのよい高台の堤台地内に完成しました。総面積は三千六百平方メートル。公園中央には、地区のシンボルでもある諸手船のミニユメントが立っています。敷地内には、サクラをはじめ樹木が多く、三月下旬から四月上旬にかけてはソメイヨシノが満開になり、町内屈指の桜の名所として多くの花見客が訪れます。サクラの花が終わるとツツジの花が見ごろを迎え、初夏にはアジサイの花も見られるなど、季節の花が楽しめます。子どもが遊べるブランコもあり、子どもから大人まで楽しめる憩いの空間です。



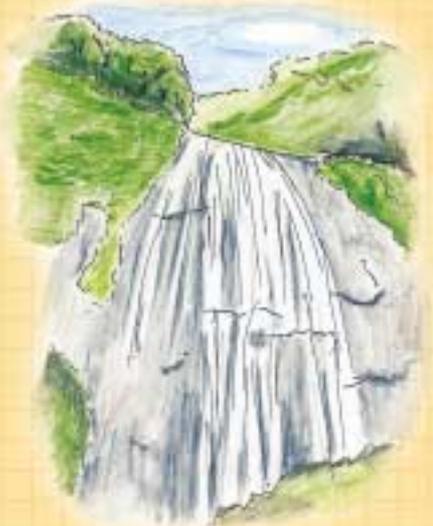
な行

ナメコ栽培

ナ メコは、高地に自生するブナの倒木に生える高級食用キノコで、粘りのある独特の食感が特長です。平尾井・井内地区では、ナメコの人工栽培を行っています。一定の温度と湿度が保たれたクリーンな生産工場内で生産されたナメコは、真空パックに詰められて、一年を通じてコンスタントに出荷され、紀宝町の特産品のひとつになっています。栽培の様子は、まちかど博物館の「紀宝きのこ博物館」で見学することができます。

布引の滝

湯 の谷の溪流沿いに山に入り、弁慶産湯、矢筈の滝、行滝などの絶景ポイントを経て、徒歩で約三十分ほど行った展望の開ける場所にある滝です。落差約三〇メートル、幅約七メートルで、県道からほど近い場所にある滝としては大型です。



は行

防災カメラ

イ ントラネットを利用した「景観情報及び防炎情報映像配信」事業として、町内各地に防災カメラを設置し、防災監視情報と景観情報の映像をインターネットで二十四時間ライブ配信しています。ライブ映像カメラは、公共施設や河川流域、港湾周辺などを中心に設置されています。災害発生時には避難場所になる公共施設のテレビにも映像が送信され、町内の状況を把握することができます。

ま行

まちかど博物館

地 域の伝統的な職人芸や地場産業の製造技術、個人の趣味のコレクションなどを、仕事場や個人宅で公開する、住民主体の博物館です。紀宝町内には園芸、盆栽、折り紙、絵画、昔の農機具、郷土資料など展示物がバラエティに富んでいるのが特色です。地場産業では、古式の天然醸造酢づくりをしている「みふね酢醸造博物館」が製造工程を公開し、館長による解説を行っています。

みふね酢

昔 ながらの手法で造られる天然醸造酢で、成川地区の中野商店の看板商品です。昭和十四年の創業時から守り続けてこられた古式醸造法は、米をどぶろく状態にして、三メートルある杉の大樽で数回自然発酵させた後、半年間寝かせて熟成させます。原材料にもこだわり、契約栽培で生産された酢に最適な品

種の特別栽培国産玄米を一〇〇％使用しています。機械を使えば六時間足らずでできるところを敢えて半年かけて造られる酢は、口当たりがまろやかで風味があるとクチコミで評判が広まり、全国の寿司屋さんから注文が殺到しています。

めだかの学校

野 生メダカの保護活動を中心とする自然保護活動を通じて地域住民の交流と自然との共生をめざす、平成十六年に発足した自然保護グループで、約百名の会員がいます。野生メダカが棲息する井田地区の休耕田には、「メダカの学校」父母会によって、手作りの観察用木製ベンチや木の橋が設置され、児童たちに利用されています。





鵜殿・成川地区



井田地区



大里地区

紀宝町

平成18年1月10日、紀宝町と鵜殿村が合併して誕生した紀宝町は、紀伊半島の南東部に位置し、北は御浜町、西は熊野市、南は熊野川をはさんで和歌山県新宮市と接しています。総面積は79.66 km²で、北西部は紀伊山地に属する山々が広く分布し、相野谷川をはじめとする河川流域の平地には水田が開け、丘陵地にはみかん畑が広がっています。南東部の鵜殿港周辺は、製紙工場や製材工場が立地する工場地帯を形成しています。

町章

紀宝の「宝」の文字をモチーフに、海、山、川がもたらす恵みの豊かさをイメージしながら、躍動感溢れる曲線のリズムで人と大自然の共鳴を表現し、力強く前進し未来に飛躍しようとする紀宝町の活力を象徴しています。





きらきら光る・ひろがる
紀宝の宝

紀宝町町勢要覧◎2007

発行◎紀宝町役場

〒519-5701 三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿324番地

TEL 0735-33-0334/FAX 0735-32-1244

HP : <http://www.town.kiho.mie.jp/>

E-mail : kikaku@info.town.kiho.mie.jp

発行年月◎平成19年3月

制作◎(株)日本出版